

製品名: ジキシン (リン酸化 Ser142) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05647**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	ZYX
別名	ZYX; Zyxin; Zyxin-2
遺伝子 ID	7791.0
SwissProt ID	Q15942
免疫原	抗血清は、Ser142 のリン酸化部位周辺のヒトジキシン由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 108-157

背景

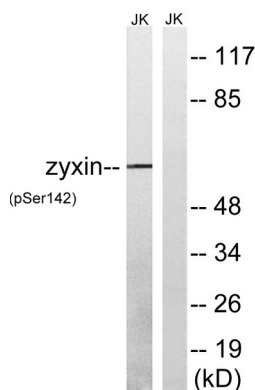
接着斑は、細胞が細胞外マトリックスに接着することを可能にするアクチンを豊富に含む構造であり、シグナル伝達に関与するタン

パク質複合体が集合する場所です。ザイキシンは、接着斑およびアクチン細胞骨格に沿って集積する亜鉛結合リンタンパク質です。ザイキシンは、N末端にプロリンを豊富に含むドメインと、C末端側に3つのLIMドメインを有します。プロリンを豊富に含むドメインは、シグナル伝達経路に関するタンパク質のSH3ドメインと相互作用する可能性があり、LIMドメインはタンパク質間結合に関与していると考えられます。ザイキシンは、シグナル伝達経路において、接着刺激による遺伝子発現の変化を媒介するメッセンジャーとして機能し、アクチン束の細胞骨格構造を調節する可能性があります。選択的スプライシングにより、同じアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2008年7月]、機能: 接着プラークタンパク質。α-アクチニンおよびCRPタンパク質に結合する。遺伝子発現における接着刺激による変化を媒介するシグナル伝達経路の構成要素である可能性がある。類似性: ジキシン/アジュバファミリーに属する。類似性: 3つのLIM亜鉛結合ドメインを含む。細胞内局在: 接着斑付近のアクチン細胞骨格と会合する。HESX1の存在下で核内に入る。サブユニット: HPVタイプ6タンパク質E6と相互作用する。HPVタイプ11、16、または18由来のE6タンパク質とは有意に相互作用しない。プロテアーゼに富む領域を介して、ENAHおよびVASPのEVH1ドメインと相互作用する。ENA/VASPファミリーメンバーとの相互作用は、接着斑への標的化とアクチンに富む構造の形成に重要である。

研究分野

焦点接着;

画像データ



パクリタキセル 1 μ M で 24 時間処理した Jurkat 細胞のライセートを、Zyxin (リン酸化 Ser142) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。